

なお皮革染色については種々の染料、溶解剤で染色してみたがいずれも耐光堅牢度が悪く目下研究中である。

3.2.11〔題目〕温泉の研究（継続）

黒川 達爾雄

〔要 旨〕

鹿児島大学の関係者と共に、調査研究を行ないつつある。

本年度は霧島火山周辺の温泉について、その結果を下記により報告した。

(1) 鹿児島温泉研究会

霧島火山地域の温泉（その3）

(2) //

霧島火山北部地域の温泉

3.3 雑 録

3.3.1 技術指導その他

- (1) 調査 でん粉工場汚水、パルプ工場廃水、染色工場廃水、鉾山廃水その他について前年度から引続き河川水質の把握と公害問題および工業用水源の確保等の観点から調査を行なった。

また染色関係では大島紬製品の染色堅牢度を約600点の抽出試料について測定し市販製品の品質調査を行なった。

(2) 技術指導および相談

特に染色関係について大島紬の染色法の急激な進展に対応して技術相談は増加した。

3.3.2 依頼分析試験

傾向として燃料類については灯油軽油混合に関与するものが増加した。その他各種の工業材料等複雑多様化の傾向がみられる。

3.3.3 指導、依頼分析等実施状況

依頼分析試験 1950件

技術相談	475件
講習会（染色）	2回
研修会（染色）	1回
実地巡回指導	125工場
諸調査	27
技術員養成	4

3.3.4 火災の教訓

昭和41年3月19日午前5時半頃当场食品工場より出火し、食品工場（木造平屋・110坪）全部と隣接の別館（木造モルタル壁・2階建・120坪）の2階を半焼した。

原因は不明である。

この事故の教訓を紹介し、参考に供したい。

1. 建物について

1. 当然のことながら不燃性建物であることが望ましい。

2. 防火壁は防火壁であるべきこと。

当然のことであるが、当場の場合、建物増築の際、柱代りに防火壁のモルタル壁が利用され、隣接建物の梁が差込まれていた。これを伝わって類焼。

3. ベニヤ板は燃えやすい。

4. 状況にもよろうが、木造建物の場合、重量物の搬出はむずかしい。

5. 機器には、カバーを。

合成樹脂製フィルムのカバーがかぶせてあったため、機器に水がかからず、また煙煤がはいりこまず、被害が少なくてすんだ。ただ発光分光分析装置の電源部のみは、水はかからなかったが、煙煤が沢山はいりこみすぎていたため取替えた。

6. 消火用のホース、筒先、バルブの位置は内部の者だけでなく、外来者にもわかるよう、また夜間でもわかるようにしておく事が好ましい。

7. 火災保険

高価な機器類については、購入の都度必要手続きをすましておいた方がいいと思われる。